

広報 ふじがわ

12月号

昭和49年12月1日発行

No. 168

町のメモ

昭和49年11月1日現在

人口 16,254人

増減 先月より + 44人

男 8,027人

女 8,227人

世帯数 3,858世帯

面積 31.09km²

富士川町 企画課



ワラジを実演即売 松野の老人たち —文化祭で—

第二十回町民文化祭は、好天気
にめぐまれた十一月二・三日の両
日、町立体育館前などの五つの会
場で行なわれました。

展覧会場（町立図書館）には、
盆裁や絵画、書道、写真、手芸な
ど身近かな人たちの作品約五百点
が展示され、訪ずれる人たちの目
を楽しませていました。四方の会
の美しい琴の音の聞える芸能祭の
会場（町立体育館）では、コーラ
ス、詩吟、舞踊など日ごろの練習
の成果を熱演。

焼鳥のにおいにつられて園遊会
場（町立体育館前）に行ってみる
と、秋晴れの日ざしの中、婦人会
のバザーや劇団創炎のピヤガデー
ン、茶席も設けられていて大勢の
人たちが集まり。なかでも、松野
地区の老人たちが手づくりのワラ
ジの良さを味ってもらおうと実演
即売会を開き、一足二・三百円の
ワラジは珍らしさも手伝って、飛
ぶような売れ行きで「民芸の味」
に人氣が集中していました。

また、囲碁・将棋大会も行なわ
れ、次の人たちが優勝しました。
◇将棋大会 村松達由 ◇囲碁大
会 山下六郎（A級）常盤弘（B級）
高瀬裕行（C級）

なお、出品作品の中から鎌田春
子（書道）太田美美子（絵画）野
口政義（写真）上月幸子（手芸）
の四氏が町長賞に輝きました。

に一步近づく

富沢線、松野地区

大型ダンプカーの通行で悩んでいる、県道富士川富沢線の松野地区の交通公害問題で、町や地域住民は長年の間、バイパス建設を県に要望してきました。

県はこの解決案として、このほど南松野馬坂から北松野大北町を結ぶ、延長三千五百五十メートル、平均幅員八・五メートル、二車線の松野地区バイパスの路線計画を提示しました。

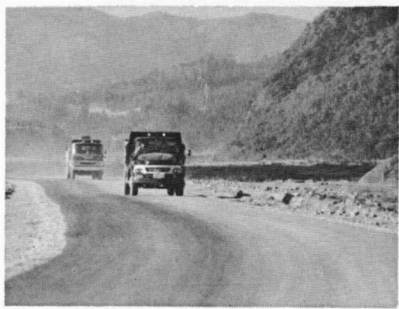
計画では、地元への理解が得られ次第、来年度中に用地取得、五十一年度から五十二年計画で工事に入る予定です。

町と県は、地主や地域の住民に対して数回説明会を開き、同計画路線の重要性や関係者の理解を得ようとする。ほぼ了解点に達しました。

県道富士川富沢線は、昭和四十一年に現在の幅員約七メートルに改良舗装され、旧富士川と旧松野地区を結ぶ唯一の生活道路として住民の交流に寄与していました。

しかし、昭和四十三年ごろから富士川河口が砂利採掘禁止になり骨材業者が上流に移動。このため砂利を運搬する十一トンの大型ダンプカーが一日約六千台も同道を通過。マイカーの急速な普及と相まって交通はしばしば渋滞し、歩行者は危険で歩けなくなり、沿道の民家は夜明け前からダンプカーの騒音に目をさまされ、風間は車の排気ガスや粉じんが家の中に入りこむ、といったありさま。

また、交通事故（とくに老人と子ども）も増大。このままでは「住民の危険はもろろん、町民の生活道路としての機能も失なわれしてしまう」と町では、同道の交通



河川敷ダンプ専用道路
木島付近

対策協議会（中川国兵会長）を同年に発足。続いて翌年には、富士川産業開発道路開設期成同盟会（中川国兵会長）を発足して、一般歩行者の安全確保と、生活道路としての機能を再び取り戻すためバイパス建設を国、県に強力に要望してきました。

その運動が実ってか、県では、同年に富士川橋から木島（俣スルガ入口）までの間の富士川河川敷に暫定的なダンプ専用道を布設。さらに、昭和四十六年十二月には南松野馬坂から蒲原町留東までの間六・八メートルが開通し、富士川橋から南松野馬坂までの同県道は、ダンプカーの終日全面禁止になりました。これで木島、小山、舟山町、坂下地区の沿道住民は一時的ながらダンプ公害から解消されて

いました。

しかし、ちょっとした大雨により富士川が増水するため、河川敷のダンプ専用道は決壊し、復旧するまでは再びダンプカーが同県道を通過している現状です。

松野地区では富士川河川敷のダンプ専用道もなく、ダンプカーは街中を突っ切っている、住民の唯一の生活道路である、幅員七メートルの狭い同県道を通行しているため、必然的に交通事故は多発し、幾多の人たちが犠牲になり悲しい思いをしています。同地区も舟山町、坂下地区と同様、ダンプ公害に悩まされています。

たまりかねた住民は、まず「子どもをダンプカーから守ろう」と松野地区同県道交通対策促進協議会（宇佐美裕会長）を昭和四十七年三月に発足。続いて同年九月には、松野地区子どもを守る母の会（当時、神戸きく多会長）が結成されて、民家から外れたバイパス建設を町や県に呼びかけていました。

現在、同県道は全線が四十センチ制限や駐車禁止。一部に歩道など交通安全施設が設けられていますが交通事故は依然として多く、このため事故防止を願って死者慰霊塔やおはらいをするなど、今や神代へのみの現状です。

今回、県が提示したバイパスは

みなさんの善意を 歳末助け合い募金

心身に障害をもつ人々や生活困窮家庭の人たちが、私たちと同じようにみんなをそろって明るい楽しい正月を迎えていただく、と歳末助け合い共同募金運動が十二月一日から行なわれています。みなさんの善意で募金運動にご協力ください。

町社会福祉会（中川国兵会長）は、区長会、婦人会、仏教婦人会ら各種団体のご協力を得て、各家庭や事業所、団体にお願ひにあがります。

集まったお金や物品は、全部不幸な人々や社会福祉施設に入居している人たちに配布されます。

なお、受付は役場福祉課で行なっています。

81万円の善意 ありがとうございました

今年も十月一日から三十一日までの一カ月間、「赤い羽根」共同募金運動が行なわれ、各家庭や法人などのご協力により八十一万二千四百円の善意が集まりました。

これは、昨年に比べると十一万三千四百円の増額になっています。募金運動に協力してくだ

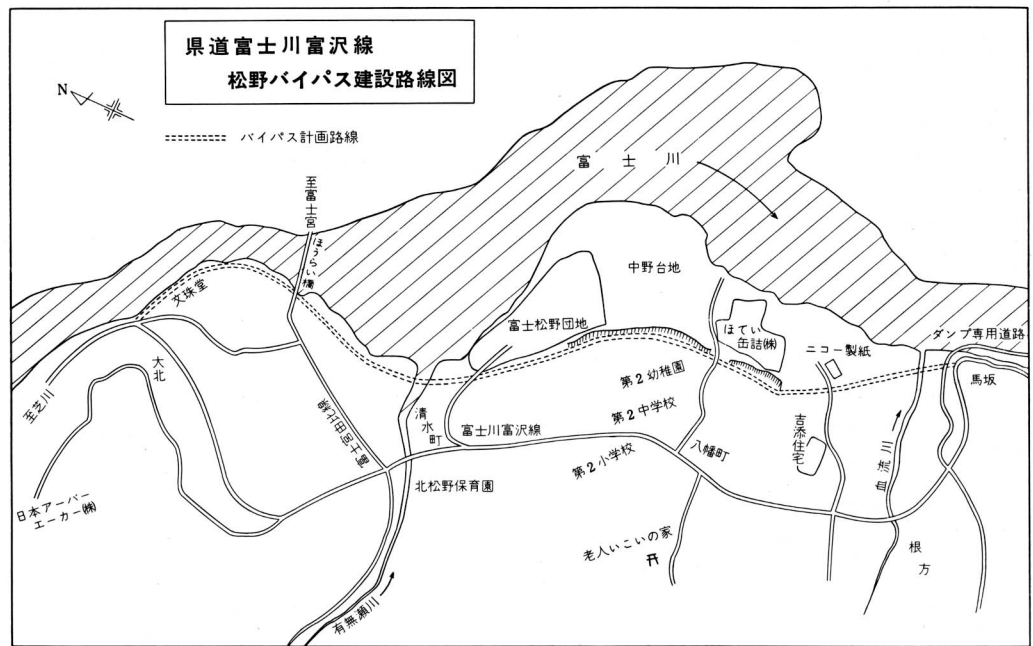
バイパス建設

県道富士川

昨年の立ち入り測量を基に計画された路線で、南松野馬坂から中野台地の南西側を通り、大北町までの比較的人家の少ないところ。延長二千五百五十メートル。平均幅員八・五メートル。一部高架。富士宮由比線と交差するところはインターをまた、片側には一定区間の歩道を設けたものです。

県は、地元への理解が得られ次第総工費二十数億円を投じて、今年から来年にかけて用地取得。五十一年から五十二年計画で事業実施す

このバイパス道路計画については坂下を守る会会長の芦川作太郎さんは「計画路線では、坂下地区の現道から富士川寄りの民家は移転することになる。また、四車線道路になれば山側の民家は排気ガス騒音、粉じんなどの公害で今まで以上に悩まされることになるので、同地区については、現道をそ



のままにして富士川寄りの民家が移転しなくてもよいところへ建設して欲しい」と話していました。町では、富士川河川敷の使用問

題など、地元住民の意見を反映したバイパス建設のための陳情を県や建設省に対し、今後もなお行なっていく方針です。

さいましたみなさんに感謝します。

なお、集まったお金は、恵まれない子どもたちの施設や、老人ホーム、民間社会福祉施設などの整備拡充に使われます。

年賀状は 12月22日までに

毎年、十二月になると郵便物の量がふだんの二倍から三倍になり、大へん混雑します。

このため、年賀状は十二月十五日から受付けます。元旦に先方に届くためには、遅くとも二十日までに郵便局へ出してください。なお、郵便番号は忘れないで書きましょう。

また、小包については十二月十五日までにだしていただきます。

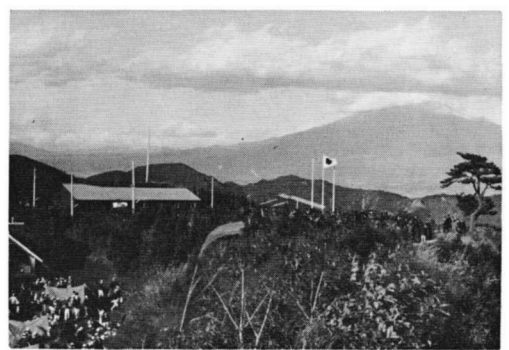
年末の 小包の取扱い

富士川駅では、これから年末にかけて小包の託送が多くなりこのため混雑しますので、十二月一日から二十日までの間、受付時間を午前八時三十分から午後三時まで制限します。

なお、近いところ（東は横浜西は名古屋くらいまで）の託送は、十二月二十日以後にお出しください。（富士川駅）

青少年に吉報

由比町に野外センター完成



完成した青少年野外センター

青少年に自然の中での研修の場を、と静岡地区広域市町村圏協議会（会長、荻野準平静岡市長）は、由比町の景勝地、浜石岳に建設していた同協議会の目玉事業である「青少年野外センター」がこのほど完成。十一月十八日に荻野静岡市長をはじめ、二市三町長、議会、教育関係者ら約三百人が出席して落成祝いが行なわれ、同日からオープンしています。

同センターは、由比町のハイキングコースである浜石岳（標高七百七十メートル）の直下、三保の松原から伊豆半島にわたる駿河湾を一望のもとに見渡せ、富士山を真正面に仰ぎみる景勝地。国道一号线から車で二十分、浜石岳まではハイキングコースで四十分の三本松台地、約三万三千平方メートルに建設されました。

青少年用の施設としては郡内で初めてのもの。工事は総工費一億四千三百八十二万七千円をかけ、四十八・四十九年度継続事業として行なわれました。

施設は、百二十人収容できる鉄骨平家建ての宿泊棟三十人収容の研修棟。炊事棟二カ所、便所が完備。それにキャンプ場やスポーツ広場も造成され、自然を通じて次代を担う青少年の心身の鍛練の場として最高の

場所です。

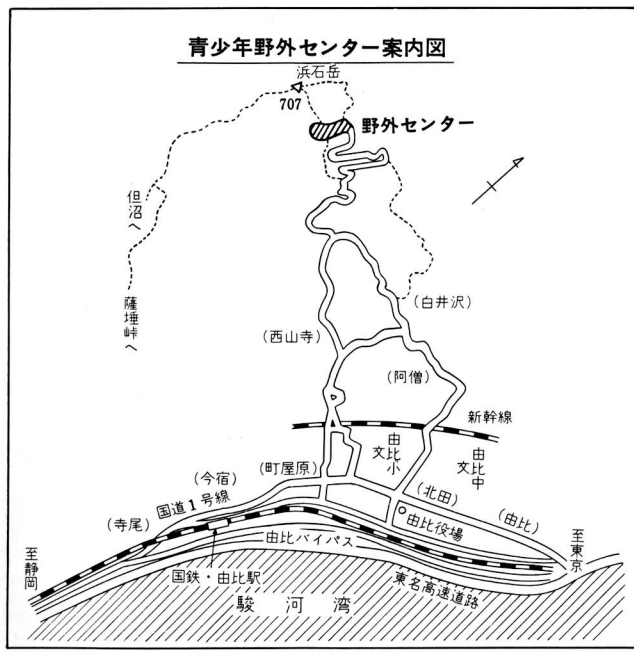
当日の落成式では、まず地元古牧由比町長の経過報告。このあと富士山を背に二市三町長がテープカット。また研修棟前にはそれぞれの市の木、町の木を記念に植

樹しました。続いて、由比中生徒の喜びのこぼれや、オープンを祝って登山した由比小、由比北小の児童たち二百人が一斉に風船を澄みきった青空に放ちました。

同施設の使用料は、宿泊五十円、キャンプ場三十円で毛布やテントも準備されている。

静岡市、清水市、庵原郡内に居住しているか勤務している青少年あるいは、由比町教育委員会が認めた人ならどなたでも使用できます。詳しいことは青少年野外センターに問合せてください。

TEL 05437(5)4105



公営住宅建設など 今年の土木工事が着工

- 今年度の事業として、公営住宅建設工事や南松野の稲荷橋架替工事など二十三件の土木工事の入札が、このほど役場会議室で開かれ、落札し、すでに着工しています。
- 工事中は、みなさんにご迷惑をおかけしますが、工事にご協力ください。おもな工事は次のとおりです。
- ①富士川第一公園造成工事
第一小学校うら山（通称水道山）を造成し、公園として町民のいこいの場になります。
工期 10月25日～2月28日
 - ②稲荷橋架替工事
工期 10月25日～3月20日
施工者 手島組 法月寿作
請負額 三六五万円
 - ③公営住宅建設、団地造成工事
中之郷大築窪に公営住宅十戸を建設します。現在、同所では五十戸の公営住宅が建設されています
工期 10月10日～3月15日
施工者 榎若月組 若月吉太郎
請負額 三〇八五万円
 - ④都市下水道工事
東町の富士川製紙前付近約百二十戸の下水道工事が行なわれます
工期 10月25日～3月20日
施工者 若月組 若月栄
請負額 一三三三万円
 - ⑤旭町下水道工事
工期 10月25日～3月10日
施工者 榎若月組 若月吉太郎
請負額 二一二万円
 - ⑥富士川由比線改良工事
工期 10月8日～12月25日
施工者 手島組 法月寿作
請負額 八九〇万円
 - ⑦松永中沢線改良工事
工期 10月8日～12月16日
施工者 齊藤組 齊藤勝蔵
請負額 四八〇万円
 - ⑧四十九配水槽増設工事
工期 10月8日～12月16日
施工者 榎若月組 若月栄
請負額 一四六万円
 - ⑨中河原頭首工災害復旧工事
工期 11月22日～2月28日
施工者 榎若月組 若月吉太郎
請負額 一八〇万円
 - ⑩大平農道災害復旧工事
工期 11月22日～2月28日
施工者 榎若月組 若月栄
請負額 一四六万円
 - ⑪林地崩壊防止事業黒里工事
工期 11月22日～3月25日
施工者 榎若月組 若月吉太郎
請負額 三三七万円
 - ⑫林地崩壊防止事業宗清寺工事
工期 11月22日～3月25日
施工者 榎若月組 若月吉太郎
請負額 五二九万円

こわい 飲酒運転 年末年始の安全運動

これから年末年始にかけて飲酒の機会が多くなり、このため例年飲酒運転が増加。また、交通もふくそうし、気ぜわしさも加わって暴走運転が多くなるので、これらに起因する交通事故死を県民総ぐるみで絶滅しようとする「交通事故死をなくすV5県民運動」が十二月十一日から、来年の一月十日までの一カ月間行なわれます。

今度の運動目標は、飲酒運転の三ない運動「酒を飲んだら運転しない、酒を飲んだ人に運転させない、運転する人には酒を飲ませない」と、暴走運転の防止をスローガンに死亡事故皆無を目指します。

町でも、交通安全協会、警察、婦人会などの協力を得て、県の運動方針にそって展開します。

今年の蒲原署管内の交通事故死者は、九月三十日現在で四人と、昨年より六人減少していますが、これから年末年始にかけて酒を飲む機会が多くなりますので交通事故を起さないよう、とくに飲酒運転追放三ない運動の主旨を守ってください。

歩行者は仮橋を
稲荷橋架替工事のため

南松野地内の稲荷橋（平清水）の架替工事のため、三月三十一日まで全面通行止めになっています。

このため、歩行者は、稲荷橋から約二十以下流の仮橋を利用していただくことになっています。何分仮橋ですので、お子さんやお年寄りには十分注意して通行するよう指導してください。また、平清水、足ヶ久保、漆野地区の車輛については、東海企業線の採石現場付近から新井入口までの間、ダンプ専用道路を通行していただくこととなります。一般道路とちがいますので十分注意して通行してください。

また、中山、矢所地区の車輛は、新井をう回するようお願いいたします。

ご不便とは思いますが、工事が完了する三月三十一日までご協力ください。



老人福祉センターの 管理人募集

町では、ただいま、老人福祉センターの管理人を募集しています。

ご希望のかたは、詳しいことを教育委員会社会教育課へ問合せてください。面接等を行なうて採用を決めます。

仕事は、老人福祉センターの管理人として、同センターに住んでいただくこととなります。

納税メモ

固定資産税の納期は
12月25日までです。
納期内に納めましょう。

心配ごとは気軽に
総合相談所を
ご利用ください。
・12月20日(金)9時半～3時
・老人福祉センター

二年間の成果を発表

心身障害児教育推進協

すべての子どもに生がいを果たせる教育をめざして、をテーマに郡三町は、県下で初めての心身障害児教育推進地区の広域指定を受け、昨年からの二年間継続で推進しています。

その母体である心身障害児教育推進協議会（会長北条周治浦原町教育長）は、本格的に児童生徒の社会的自立や適切な学習指導に取り組んできましたが、十一月九日最終年度の研究発表会が浦原東小学校、浦原中学校で開催されました。

郡下に心身障害児のための教育が生まれたのは十六年ほど前からです。しかし、手をつなぐ親の会教育関係者の努力にもかかわらず親や社会の理解が得られない実情でした。

これを機会に、真の心身障害児あるいは、広い基盤の上立った一人一人の子どものための教育を進めるべく、昨年から教育相談部学習指導部、進路指導部、啓発部の四つの専門部から成る心身障害

児教育推進協議会を設け、三町が一体となって「真の教育や自立の道への指導について」総合的な研究指導を続けてきました。

この日の発表会には、県下の教育関係者やPTA約三百人が出席浦原東小学校や浦原中学校での公開授業を見学した。浦原東小学校で全体会が開かれ、各専門部がそれぞれのテーマによる二年間の研究指導の発表などが行なわれました。



仲よし学級の勉強を参観する関係者

同会では、指定解除後も横の連絡を密にした心身障害児教育や指導にあたる方針です。

楽しくみかん狩り

中電がお年寄りを招待

地域の人たちと親睦をはかろうと「こんにちは運動」を進めている中部電力榎富士川営業所（森下節朗所長）は、十一月十八日、まきの木教室のお年寄り九十人をミカン狩りに招待しました。

当日、お年寄りたちは、老人福祉センターで記録映画「三河」を観賞したあと、ラジオ体操で体をほぐし、約二キロ離れた吉津の望月貞蔵さん所有のミカン園まで、約五千歩の道のりを「歩け歩け運動」もかねて元気にハイキング。



みかん刈りをしているまきの木学級生

日ごろの教室でおぼえた詩吟や民謡を仮舞台で披露したり、中部電力の人たちと世間話をしたり、健康づくりと合わせて、食欲の秋を満喫していました。

無公害の手作り米

松野の婦人会が収穫



黄金色の稲を刈り取る婦人会松野生活部

薬品を使わない農作物を生産し合わせて会員たちの仲間づくり

役立たせよう、と婦人会松野地区生活部（小林君代部長）は、春から休耕田を借りて米づくりをしてきました。が、十一月九日、待望の収穫を行ない、土に手を触れたことのないお母さんたちも生産の喜びにひたっていました。

ちが自らつくってみようと計画。望月文吾氏（南町）の休耕田千二百平方メートルを三年契約で借り受け、耕作した田に今年の六月苗を植え、この日みごとに実った黄金色の稲をみんなで刈り取りました。

近くの吉添団地に住むお母さん方も作業に加わり、はじめて土に触れた人もあり、会員同志の対話も生まれました。

合同で七つの祝い

ふだん着の園児が出席

簡素化運動を進めている婦人会（望月八代会長）は、来春小学校へ入学する町内の幼稚園、保育園の園児二百八十八人を対象に、ふだん着のままで「合同七五三の祝い」を十一月十七日、第一小学校体育館で行ないました。

き添いの父兄は不断着姿という質素な服装で参列。

望月婦人会長から千歳あめや記念品が園児一人一人に手渡され、また、婦人会員から「おめでとう」という励ましに、園児たちは「ありがとう」と答えていました。

このお礼に、各園でふだん習っている歌や遊戯などを披露。お母さんたちも我が子の成長に目を細めていました。



この後、第一小学校グラウンドで「ほく大きくなったらパイロットになりたい」「わたし大きくなったら料理の先生になりたい」などの将来の夢を書いた短ざくを、園児たちは、風船に結びつけて大空に向って放ち、七つを祝いました。

タバコに注意

タバコは、昭和三十五年以来毎年、火災原因のトップの座を占めています。

昭和四十七年中の火災においても十四・三割がタバコからなっています。そのうち、五八・六割がタバコの投げ捨てにより出火しています。

喫煙中のタバコの温度は約七百度に達し、その高温の火源が喫煙者の不注意によりしばしば大火災の原因となっています。

これから火災シーズンに入りますが、とくに、住宅周辺の空地や放置された田畑などの枯草火災が多く発生します。

隣近所の人たちにも迷惑がかかりますので、空地の所有者、管理者は、枯草や燃え易いものを至急取りのぞいて、火災の予防をお願いします。

タバコの投げ捨てや寝タバコは絶対にやめましょう。

タバコに注意

（庵原地区消防本部）
火災予防条例（抜粋）
（空地の管理）
第二十四条 空地の所有者、管理者、または占有者は、当該空地の枯草などの燃焼のおそれのある物件の除去、その他火災予防上必要な措置を講じなければならない。

小雨に注意

最近、雨が目に入った場合、目が痛いなどの症状を訴える被害が県下で発生し、テレビや新聞などで「酸性降雨」として報道されています。

こうした訴えは当町でも、一昨年ころからではじめています。国や県でも、酸性降雨の発生原因や被害発生の原因物質などについて調査研究を進めていますが、今のところ、まだ十分に解明されていません。

当町でも県と協力して、常時雨水の酸性度を測定するよう努めています。酸性降雨の被害を防止するため次のことに注意して下さい。

- ①小雨のときでも必ず雨具を使用する。（雨水の酸性度は、小雨や霧のときが、とくに高い傾向にある）
 - ②オートバイなどでの走行中、雨水が目に入らないよう工夫する。
 - ③小雨、霧雨のようなときは、児童生徒の屋外でのスポーツ活動はひかえる。
 - ④目やのどの痛みがあるときは洗顔やうがいをする。
- なお、被害を感じたときは町産業公害課に連絡してください。

戸籍の窓

49・10・20～11・19 (敬称略)

おめでた

区名	出生児	保護者続柄
相生町	若月 敦郎	章弘 長男
上町	深瀬 努	正 〃
新町	望月 康世	喜義 三女
本通四	鈴木 専利	茂 二女
幸町	中川 喜央	高吉 二男
東町一	柳澤 雄一	和雄 長男
南町	天野 博貴	敏男 二男

南町	芦澤 陽彦	貞治 二男
〃	錦織 真也	常實 長男
八幡町	杉谷 一樹	哲夫 〃
〃	望月 秀一	一徳 〃
〃	望月 秀之	金作 長女
〃	富士松野福澤 愛子	茂 二女
清水町	川越 茂樹	恒男 長男
大北町	宇佐美陽子	昭一 長女
儘下町	小澤健太郎	勝己 長男

よろこび

区名	新 郎	新 婦	旧 姓
木島	若月 満	加恵	望月
舟山町	村松 弘一	政子	野田
坂下	赤塚 泰一	恵子	尾竹
四十九	菊地 正好	澄江	長橋

おしあわせに

区名	氏名	転出先
相生町	天野 道子	富士市
〃	丸山 陽子	東京都
〃	風間 明美	富士市
堺町	斉藤 洋子	芝川町
川坂	若月 郁世	清水市

かなしみ

区名	氏名	年齢
木島	佐伯 文英	六八
堺町	若月幾太郎	七七
本通一	望月 きり	七二
東町二	鮎川 伸代	六八
日の出町	田辺 義子	一八
南町	佐野 ヨ子	七四
大北町	朝比奈なみ	七二



南町 小沢吼素人
よきほどに歩を合す仲菊の苑
銀河走す夜の百姓の拙なき声
大北町 天野 たま

運勢を待みて胡桃握りしむ
山内に許されて売る柿胡桃
南町 法月 幸子

母病めば柿の不作もたのみかな
点滴のぬくみ人肌秋の暮
清水町 宇佐美裕子

百合活けて人の出入のなごやかや
かなくや終には母を頼みとし
南町 宇佐美幸子

働らきし汗そのままの風寝かな
母の日の児にもらひたる手紙かな
南町 影島 智子

子が横にゐて合掌や姑の盆
晩字に白く夜涼の雨の脚
宮町 増井 冬木

命いとし天高ければ蒼ければ
天高かしわれに賜はる広さかな
色鳥のいつ棲みつきし山模様
こうろぎに過去と未来を鳴かれ居
り (文協理事 増井冬木記)

物価高に悩む

主婦が殺到

昨年暮れの物不足や諸物価高騰の折、各家庭で不要となった品物を持ち寄り、お互いに必要なものと交換「ねむっている物にもう一度命を与えよう」と婦人会(望月八代会長)は、十月二十七日、老人福祉センターで「余剰品交換会」と「青空市場」を開きました。名家庭からの日用品や食料約三千点を、非常に安い値段で売りさばき大成功のうちに終り、物を大切にする運動に一役かいました。

当日は、予定の午前十時の開会に早くも主婦たちの長い列ができ結局三十分早く開きました。あらかじめ展示されている子ども用品、婦人もの、台所コーナー、アクセサリー、食料品などに開場と同時に約五百人の主婦が訪れ、市場では三千円くらいする物でも百円～三百円と安く、主婦たちは真鍮な眼差しで買い求めています。その後子ども連れの主婦が約二千五百人入場し、売り手の婦人



盛況な婦人会余剰品交換会

会の会員はテンテコ舞の大忙しにうれしい悲鳴をあげていました。また、入口前の広場の青空市場

ではミカン、サツマイモ、ネギなどの食料も販売。両会場の品物は午前中でほとんど売りきれました。婦人会では、昨年暮れからの物不足を教訓に各家庭のタンスの中を調べ、 unnecessaryなものがあつたらもう一度その品物が必要な人たちに与え、物を大切に、あるいは節約する運動を呼びかけ、昨年は松野地区で同様の交換会を開き盛況を得ました。

今回の交換会は、全町規模では初めてのことで、町内二十支部の会員たちが地域の特性に合わせた家庭内の余剰品約三千点を提供。この日の交換会になったものです。婦人会は「日ごろの呼びかけが

実って、特に若い主婦に人気があり節約が改めて見直されたことは大変うれしい、今後も機会あるごとに同様な交換会を開き、物を大切にする運動を推進したい」と話していました。